

内視鏡、カプセル、CT

大腸の検査態勢充実

製鉄記念
室蘭病院

◎各大腸検査の長所&短所◎

	長所	短所
大腸内視鏡	その場での組織採取やポリープ切除が可能。 検査費用が安い。	「お尻」を見せるなど、検査する体勢に恥ずかしさがある。 医師の熟練度によって、腹部膨張感などによる苦しさや、痛みを感じる場合がある。
大腸カプセル内視鏡	恥ずかしさを感じることがないため、精神的な負担が軽減される。 口から飲み込むだけの簡単さで身体的負担が少ない。 検査中（一定の時間経過後）も仕事や家事などが可能。	カプセルを体外に排出するための下剤の服用が必要。 カプセル排出までに、思わぬ時間を要する場合もある。 その場での組織採取やポリープの切除はできない。
大腸CT	大腸内視鏡の挿入が困難な人でも検査が比較的容易。苦痛が少ない。 大腸の全体像や病変の形を正確に把握できる。	医療被ばくがある。妊娠の可能性がある人は検査ができない。 病変の色や硬さの情報が得られない。平坦な病変や小さなポリープは分かりにくい。

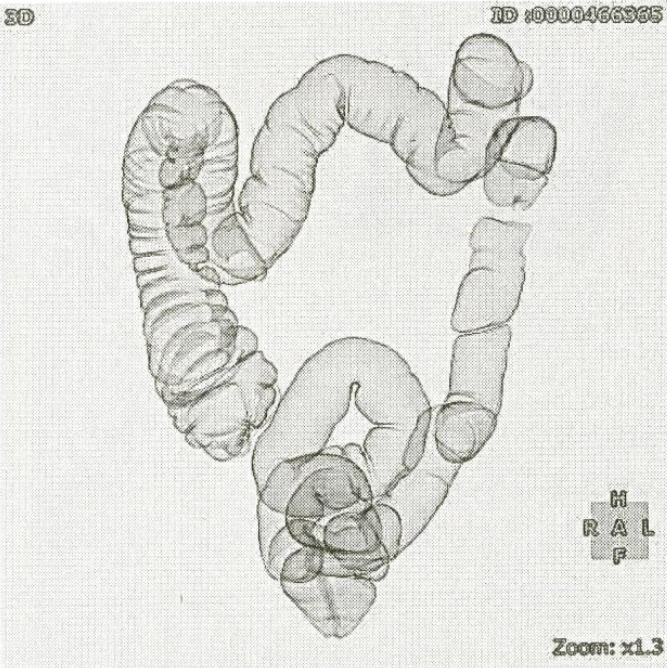
製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）は、大腸用カプセル内視鏡検査、大腸CT検査（CTコロノグラフィ検査）のシステムを相次いで導入するなど、大腸の検査態勢を充

実させている。従来の内視鏡検査を加えた3種類の検査が対応可能な施設は、道内でも数カ所しかない。同病院では「各検査法の長所と短所、保険適用などを参考に、一人

でも多くの人に検査を受けてほしい」とする。がんの部位別死亡者数をみると、大腸がんは女性1位、男性3位と、死亡者が多い状況だ。ただ「大腸がんの受診率の低さが要因の一つ」ともされており、40歳以上の

人や、便潜血反応で陽性となった人は、大腸の精密検査を受けることも推奨されている。同病院では2013年（平成25年）11月、道内で初めて「大腸用カプセル内視鏡」を導入した。小型カメラなどを内蔵したカプセル（直径約1.1センチ、長さ約3.1センチ）を口から飲み込むため、

精神的・身体的な負担が少ないなどが特長だ。公的医療保険適用は限定的で、保険外診療では約10万円の費用が生じる。今年2月には、コンピュータ断層撮影装置（CT）を用いた大腸CT検査に対応するシステムも導入した。肛門から管を使って二酸化炭素（CO₂）を注入し、大腸を膨らませた上でCT撮影する。そして、撮影データに基づいて大腸を立体画像化し、形状や内部の様子、病変などを確認する手法だ。



大腸CT検査による大腸の画像。立体画像化され、解析・診断される。製鉄記念室蘭病院提供

大腸カプセル内視鏡や大腸CT検査は、ポリープや病変が見つかった際、すぐにポリープ切除や組織採取ができないなどの短所もある。前田病院長（日本消化器内視鏡学会専門医・指導医）は「3種類の検査は一長一短があるが、医師と相談して、自分にあった最適な検査を受けてほしい」と話している。

（松岡秀宜）